

KAGURA for Peace 2018 in Hiroshima
Hiroshima—Kagura and <OROCHI, for Kagura and Orchestra>
Repose of souls and Resurgence



平和の舞 —鎮魂と再生—

ひろしま神楽と<“オロチ”神楽とオーケストラの協演>

2018年8月18日(土)・19日(日)

JMS アステールプラザ大ホール

JMS ASTER PLAZA
広島市中区加古町4-17
TEL:(082)244-8000

総監督・企画構成：伴谷晃二 Chief Producer/Director Koji TOMOTANI
演出：池澤嘉信 Director Yoshinobu IKEZAWA
指揮：秋山和慶 Conductor Kazuyoshi AKIYAMA
演奏：広島交響楽団 Hiroshima Symphony Orchestra

入場料

8月18日(土)<前売券>全席自由
(当日券は各500円増)
<ひろしま神楽公演 I >
一般券3,000円
学生券(中高大)2,000円
小学生券1,000円
ペア券5,000円

8月19日(日)<前売券>全席自由
(当日券は各500円増)
<ひろしま神楽公演II>+<オロチ公演>
一般券4,000円
学生券(中高大)3,000円
小学生券1,000円
ペア券7,000円

通し券(両日)6,000円
バリアフリー席は事務局に
お問い合わせ下さい。
※就学前のお子様のご同伴は
ご遠慮願います。

前売券販売所

- アステールプラザ情報交流ラウンジ
(082)244-8000
- アルパーク天満屋 3F
(082)501-1745
- ひろしま夢ぶらざ
(082)544-1122
- エディオン広島本店
(082)247-5111
(サンモール1階)
- 福屋広島駅前店7Fチケットサロン
(082)568-3942
- 福屋八丁堀本店7Fチケットサロン
(082)246-6911
- 千代田ショッピング
センターサンクス
(0826)72-3939
- 求夢とごうち
(0826)28-1800
- さくらびあ事務室
(0829)20-0111
- ひろしま美術研究所
info@art-hiroshima.com
(082)506-3060
- チケットぴあ(Pコード:105731)

出演団体

8月18日(土)

17:30開場 18:00開演

<ナビゲーター・レクチャー I >

三村泰臣×伴谷晃二

伝統神楽<ひろしま神楽公演 I >

■儀式舞(演目 御神儀<悪魔祓い>)

大和町連合神楽保存会(三原市)

■旧舞(演目 塵 倫)

津浪神楽団(安芸太田町)

■新舞(演目 葛城山)

横田神楽団(安芸高田市)

8月19日(日)

13:00開場 13:30開演

<ナビゲーター・レクチャー II >

三村泰臣×伴谷晃二

伝統神楽<ひろしま神楽公演 II >

■儀式舞(演目 お神楽)

河津原神楽団(廿日市市)

■旧舞(演目 天の岩戸)

栗栖神楽団(廿日市市)

■新舞(演目 紅葉狩)

高井神楽団(広島市)

創作神楽<オロチ公演>

15:45開演

■伴谷晃二企画構成・作編曲「オロチ」、

火と水への讃歌—神楽とオーケストラ

のために」(2017改訂初演)

北広島町合同神楽団

秋山和慶指揮/広島交響楽団

<神楽展示(面、衣装、楽器他)>と<物産展>のご案内*当日会場

主催：広島市文化協会

共催：広島市、(公財)広島市文化財団、「平和の舞」実行委員会 (申請予定)：広島商工会議所、広島県観光連盟、東京広島県人会

助成：公益財団法人 花王芸術・科学財団

協力：広島広域都市圏協議会「神楽まち起こし」協議会(広島市、呉市、三原市、廿日市市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町)、広島交響楽協会

舞台制作協力：(株)ザ・スタッフ(予定) (株)ステージユニオン広島

後援(申請中)：広島県、広島県教育委員会、広島市教育委員会、(公財)ひろしま文化振興財団、(公財)広島平和文化センター、廿日市市教育委員会、(公財)廿日市市文化スポーツ振興事業団、広島大学、広島修道大学、広島経済大学、安田女子大学、北治山大学、広島都市学園大学、エリザベト音楽大学、広島文化学園大学、広島工業大学、広島学院大学、広島国際大学、広島文教女子大学、NHK広島放送局、中国新聞社、朝日新聞広島総局、産経新聞広島総局、山陽新聞社、日本経済新聞広島支局、毎日新聞広島支局、読売新聞広島総局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅービー、FMはつかいち76.1MHz、広島民俗学会、広島芸術学会、日本現代音楽協会、(一社)日本作曲家協議会、NPO法人クリーンD Cクラブ

【お問合せ】「平和の舞」実行委員会事務局：〒732-0824 広島市南区的場町1丁目8-15 ひろしま美術研究所内 TEL082-506-3060 FAX082-506-3062

デザイン：大橋啓一

都合により、プログラムが一部変更になる場合がありますので、ご了承ください。

平和の舞 — 鎮魂と再生 — ひろしま神楽と「オロチ」神楽とオーケストラの協演

[趣旨・目的]

神楽は本来“地域共同体”から醸し出された伝統文化です。地域の亡くなられた多くの方々への“鎮魂と再生”を原意とし、さらに「負の遺産」—ヒロシマからのメッセージ—として“核兵器廃絶・平和への希求”を世界に発信するものです。卓越した文化力をもつ“ひろしま神楽”と“平和文化大使”である広島交響楽団による公演は世界ではじめてのコラボレーションであり、世界に発信する国際的なプログラムとしてその適応性および重要性が求められています。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、広島県民・市民の共有の文化財産である「伝統神楽 ひろしま神楽」と「創作神楽 伴谷晃二企画構成・作編曲「オロチ」火と水への讃歌—神楽とオーケストラのために—」(2017;改訂初演)の公演を、広島市、三原市、廿日市市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町6市町合同で実施します。今回の公演では、「伝統神楽 ひろしま神楽」の歴史とその受容過程を踏まえて、「創作神楽 “オロチ”神楽とオーケストラの協演」への応用発展を検証するものです。

神楽は今日もなお、“神事”としての役割が基軸となり地域共同体に受け入れられています。三村泰臣氏は、ひろしま神楽は、“祈禱としての神楽”から始まり、“芸能としての神楽”、“演劇としての神楽”へと多様化を続けており、中国・四国地方の神楽は全国的にもトップクラスの質・量・多様性を誇っていることを言及しています。“ひろしま神楽”の知的・文化財産は日本のみならず、世界的にも類をみない文化・芸術として位置づいています。

[改訂初演の要点]

「創作神楽“オロチ”神楽とオーケストラの協演」は世界ではじめての試みであり、農耕と中国山地のたたら鉄を背景とした新たなストーリーと鮮明な演出、神楽の“楽”と現代音楽をオーバーラップさせた効果等、伝統神楽の「八岐大蛇」を踏まえつつ、オーケストラとの対話として展開しました。その結果、古典芸能の“序—破—急”の構成やスーパー神楽、また照明効果他、従来の神楽とは異なった斬新な試みを行っています。



広島交響楽団



総監督・企画構成 伴谷晃二



広島交響楽団
終身名誉指揮者 秋山和慶

2018年8月18日(土) 17:30開場 18:00開演 ナビゲーター・<レクチャーⅠ> 三村泰臣(広島民俗学会会長)×伴谷晃二

<ひろしま神楽Ⅰ>(演目予定)



(1) 儀式舞(演目 御神儀(悪魔祓い));大和町連合神楽保存会(三原市)
*猿田彦命が、氏子にかかる災難を撃ち祓い、里内の安寧を祈念します。



(2) 旧舞(演目 塵倫);津浪神楽団(安芸太田町)
[あらすじ]仲哀天皇 帶中津彦命の御代に異国から賊が攻略。その中に天空を神通自在に駆け巡る大悪鬼“塵倫”。天皇、従者高麻呂を率いて出陣し退治。



(3) 新舞(演目 葛城山);横田神楽団(安芸高田市)
[あらすじ]大和国葛城山に古くから住む土蜘蛛の精魂は、当時源頼光を亡き者にせんと胡蝶に変身し、頼光に毒薬を飲ませ命を狙う。四天王碓井貞光・卜部季武は土蜘蛛の精魂を成敗。

2018年8月19日(日) 13:00開場 13:30開演 ナビゲーター・<レクチャーⅡ> 三村泰臣(広島民俗学会会長)×伴谷晃二

<ひろしま神楽Ⅱ>(演目予定)



(1) 儀式舞(演目 お神楽);河津原神楽団(廿日市市)
*旧舞や新舞を行う前の神を神坐(カムクラ)に迎える儀式舞



(2) 旧舞(演目 天の岩戸);栗栖神楽団(廿日市市)
[あらすじ]須佐之男命は姉君天照大神との誓約に勝ち、悪しき事止まざるにより姉君を怒らせる。天の岩戸に御隠れになった姉君を八百万の神々が連れ出し世の中を照らす。



(3) 新舞(演目 紅葉狩り);高井神楽団(広島市)
[あらすじ]中納言平維茂主従は、信州戸隠れ山に棲む“鬼神”を退治する命を受ける。酒宴をはる美女に変身した鬼神を、鬼女に化けた維茂が“神剣”を授かり征伐。

<創作神楽 オロチ公演>15:45-17:45(予定)



(4) <創作神楽>伴谷晃二企画構成・作編曲「オロチ」、火と水への讃歌—神楽とオーケストラのために—
(2017;改訂初演) 神楽団:北広島町合同神楽団 指揮:秋山和慶/広島交響楽団
[あらすじ]火は中国山地のたたら鉄の、そして水は太田川や江の川他の上流から下流にかけての田園や舟運の文化。
<オロチ>は自然と人間の共生のために、自然への“畏敬の念”(鬼神)と自然への慈愛に満ちた“讃歌”(母神)を豊かな感性で謡い舞い続ける。この作品は神話をもとにイメージ化され描き出された創作の世界。